

音楽と私

あすなろ、牛久、五反田、越谷、大田SE所属 岡村斉能

人生100年時代と言われるが、気がつけば私も去る2月に90歳を通過した。視聴覚や足腰の力は急降下し始めたが、未だPKに至ってはいない。SEで社会に参加しているわが身の幸せを感じ交流して下さる団員や賛助会の方々に感謝している。

私が生まれて10年間は戦争の時代で不安と耐乏の毎日だったが、その後の80年間は平和が続いたのは幸いだった。人類の歴史は戦争と平和のくり返し、世界大戦後に国際連盟を作ったが、最近機能が難しくなっているのは悲しいことである。

私は子供の頃から歌が好きだった、今でも毎朝のウォーキングの時には色々なメロディーが浮かんで消える。校歌、歌謡曲、行進曲、ポップス、クラシック等々。よくSEの仲間にはいつから始めましたか？と聞かれる。私がVnに出会ったのは大学の寮に入ってからである。同室の先輩によく酒をおごって貰うのでバイトでためた1万円でお返しをするために飲み屋に連れ出したが、彼らからお金で楽器でも買ったら？と勧められ、その頃に目覚めたクラシック音楽を弾くためと値段が安いバイオリンをセット7000円で買ったが生涯の幸せをもたらすとは夢にも思っていなかった。アルコールがバイオリンに化けたのである。

バイオリンは教則本で自習できると思っていたが、買った夜に弦を3本切って1本だけになり驚いて町の先生に3ヶ月だけ習った。その後は我流で演奏したがこれが後で大問題になる。



就職は証券会社だったが、性格上の問題もあり28歳で転職を決意し当時業績に成長が見込めるヤマハの中途採用試験に応募し、バイオリンが趣味や面接者（人事課長）が大学の寮の先輩だったことなど幸運もあり狭き門をパスできた。ヤマハでは楽器を単に売るだけではなくお客様によく普及して楽しんで頂く音楽普及の思想を叩き込まれた。楽器が好きで入社したが、弾く楽しみは味わえず児童や生徒たちの器楽合奏や吹奏楽を羨ましく眺めていた。ただ家庭用のピアノ、エレキトーンがとぶ様に売れ販売担当は左うちわで会社はレジャー、スポーツ、家具など副業に投資するほど好調だったが私は管打楽器や学校教材楽器の担当で競合メーカーが強力で悪戦苦闘した。

55歳になり役職定年になり、会社もピアノ、エレキトーンの家庭向けのブームが去り業績が急落し、私は「ヤマハ弦楽器部門の開発」を命じられた。私は入社当時からバイオリン仲間だった小泉安治さん（つくば、あすなろSE団員）にきて頂き、長沢正治先生という芸大バイオリン科卒の80歳ぐらいの、純正調理論の大家を紹介された。彼に特約店向けの弦楽器ビジネスのマニュアルの監修をして頂くためだったが彼のバイオリンや音楽に関する話がすばらしく、私は即座にこの人につけばVnはうまくなると直感し弟子入りを申し出て許された。休日の時など1日に8時間ぐらい練習して構えからやり直した。バイオリンの面白さに目覚めたのである。

56歳でヤマハの業績悪化に伴う肩たたきに協力して退社、都内の大手楽器店の経営改革を2年間手伝い社員を半数にリストラして退職した。その後59歳で長沢先生のご協力もあり、北千住のマンションで弦楽器のブローカーを家内と始めた。上得意不在の船出で売上は低調だったが、店で始めた個人レッスンでVn、Vc、Cbにそれぞれプロの先生をお願いしたので私は空いた時間にそれらを同時に習った。61歳でヤマハ時代から交流のあった村上忍先生（全シ連初代理事長）から足立SEのVnに誘われ入団、半年後に店の生徒さんから荒川区民交響楽団へのVaに誘われ入団、5年間の在籍でVn1、Vc、Cbも担当した。その後63歳で全シ連の事務局長に抜擢された。65歳で我孫子の自宅を改築して北千住より移転させ66歳の春、我孫子シティファイルにVc、Cbで入団、6月に我孫子SEを自宅で開始、東日本ヤマハOBアンサンブルに入団した。ヤマハの渋谷、目黒には20年間Vcをかついで通ったが故松本洋二、故笹森敏明、生駒芳正、鴨井次郎、斎藤良先生やコンマスの小泉安治さんなど全シ連に大変貢献された人たちと交流した。

私はVnの師匠の長沢正治先生から「音楽はやさしい曲を皆で合奏して楽しむのが最高」と教えられていた。私は70歳で我孫子のオケをやめSEの普及をライフワークにしようとした。新楽団には4年間在籍して育てることを貫く覚悟である。最初に述べた通り周囲のご協力に大変感謝している。なお私と各国の係わり合いは一昨年発行の「全シ連25周年記念誌」をご高覧頂ければ幸いである。